

不戦へのネットワーク 総会報告

山本みはぎ

3月16日、不戦ネットの総会と記念講演と交流会を名古屋働く人の家で、開催しました。総会は、2018年度の活動報告と会計報告、2019年度の活動方針と運営方針、予算案が提案され、若干の議論を行い了承されました。記念講演は、当会代表で名古屋学院大学教授の飯島滋明さんが「30防衛大綱・31中期防を読み解く」をテーマに講演をしていただきました。(報告は別紙)

方針について、8月6日に広島や長崎での集会はあるが、愛知でも反戦・反核・反原発で行動をやりたい、沖縄の基地問題に対し、「基地引き取り論」について、議論が足りない、(活動方針)が教条的すぎるなどの意見も頂いた。また、去年は企画に費用が掛かり単年度で赤字になったので書籍販売なども積極的にやってはどうかという前向きな提案も頂いた。ともあれ、会の活動は事務局だけでできるものではなく、志を同じくする多くの方の協力と連帯でできるものです。今年も、弱小運動体としては過大な目標を立てましたが、皆さんと共に進んでいきたいと思えます。総会の後は、楽しく懇親会を持ちました。

以下、今年度の方針を掲載します。(そのほか、活動報告などはHPにアップしていますのでご覧ください)

2019年度方針

1. 軍備拡張・軍需産業に対する取り組み

2018年12月、31防衛大綱と中期防衛力整備計画が発表されました。第2次安倍政権誕生から6年が経過し、防衛費は年々増加し、2019年度は18年度当初比1.3%増の5兆2574億円となりました。防衛大綱は、中国や朝鮮の脅威を利用し、「これまでに直面したことのない安全保障環境の現実の下、防衛力を主体的・自主的に強化することが必要であり、真に実効的な防衛力として、多次元統合防衛力を構築」を目指すとし、「宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域の優位性を保つことが死活的に重要となっており、全ての領域を横断的に連携させた新たな防衛力の構築が必要」とうたっています。そのために「いずも」型護衛艦2隻の空母化や、短距離離陸・垂直着陸能力を持つ米最新鋭ステルス戦闘機F35Bや、イーグス・アショアなどを導入するとしています。このことは、軍事面での実質的な「改憲」であり、明文改憲の阻止と共に、「軍拡反対」は、我々が取り組まないといけない重要な課題と言えます。また、安保法制(戦争法)が、施行されてか

ら3年有余になりますが、安保法制の廃止、シナイ半島への自衛隊派遣が現実化する中、発動を許さない取り組みも必要です。

2. 改憲情勢

改憲の問題は、今国会で改憲発議をさせない、ということが最重要課題といえます。安倍首相は改憲を断念しておらず、政治日程はタイトですが、何でもありの安倍政権のもとでは何をするのかわかりません。自民党は改憲に向けて草の根運動を開始し、憲法審査会の再始動も目論んでいます。気を緩めてはいけません。安倍改憲No!の3000万人署名を推進しつつ、地域の改憲阻止の団体に積極的に参加し、安倍政権の改憲の息の根を止める必要があります。

3. 沖縄基地建設反対運動をめぐって

2019年2月の沖縄県民投票で、沖縄の新基地建設反対の民意は改めた明らかになりました。マヨネーズ状の軟弱地盤の大浦湾に新基地はできないという確信をもって、辺野古の新基地建設をとめるために、現地行動への参加と共に、本土の世論を盛り上げる、政府に対して働きかけていくという運動が求められています。この間、沖縄の問題に対しては活発な運動がされています。より連携していくようにネットの役割が求められていると思います。また、1の軍拡の問題と関連でいえば、南西諸島への自衛隊配備の問題も注視しなければなりません。引き続き、「あいち沖縄会議」や戦争をさせない1000人委員会など地域のグループと共同して取り組みを進めます。

4. 天皇代替わり、天皇制について

いよいよ、代替わり儀式が近づいてきました。マスコミ等では、すでに批判的な意見は皆無であり、「平成最後」という言葉が蔓延しています。しかし、天皇制の持つ差別・抑圧構造を代替わりを機に改めて考え、問題的をしていく必要があると考えます。「天皇代替わりを機に天皇制を考えるあいちネットワーク」の構成団体として、この問題に取り組んでいきます。

5. 朝鮮半島との関連に関して

昨年の南北首脳会談、米朝首脳会談の実現により、朝鮮半島は確実に平和に向けての歩みを始めています。ベトナムでの米朝首脳会談は実質的な成果はなかったものの、対話の流れを止めることはできないでしょう。そして、この動きは、韓国の人々の間断のない闘い